

木内石亭 生涯を奇石の蒐集にかけた"石の長者"。弄石ブームを起し、厳密な研究態度は近代考古学を先駆。

きうちせきてい

近松没・・・1724 = 近江国志賀郡下坂本村で、代々港の管理に当たっていた富裕な家拾井平左衛門の子に生まれる。

享保大飢饉・1732 = 8歳：

・・・1733 = 9歳：

・・・1734 = 10歳：初めて奇石を愛して以降、その蒐集に取りつかれ、

・・・1736 = 12歳：この頃、母の実家で膳所藩の郷代官を務める木内小兵衛の養子となるが、

・・・1740 = 16歳：この頃、結婚した直後、役人の汚職事件に連座して禁錮3年となり、
牢獄生活を石と遊んで凌ぎ、

公事方御定書1742 = 18歳：

・・・1743 = 19歳：出獄後、分家させられた。

徳川吉宗隠居1745 = 21歳：養父木内重実が死去。

・・・1750 = 26歳：京都南禅寺畔の小島代右衛門に導かれ、珠光院の茶人野本道玄を訪い茶談を聞き、入門。

徳川吉宗没・1751 = 27歳：大坂の物産学者津島恒之進が開いた日本初の物産会に参加し、入門。

・・・1752 = 28歳：近江桐生山の奥にゆく

・・・1756 = 32歳：津島が死去したため、江戸の物産学者田村元雄に師事、

源内物産会・1757 = 33歳：摂津有馬に一月滞りする

宝暦事件・1758 = 34歳：紀州旦郡地方を探る。近江犬上郡佐目村鐘孔洞に入る。

大武政治批判1759 = 35歳：伊勢を経て熊野に入る

大岡忠光没・1760 = 36歳：石部の服部氏と金山洞窟に入る。*この頃までに三十数国、奇石二千余種を採集して、愛好家に知られ、

・・・1761 = 37歳：養子小源太が死去。近江甲賀郡黒川村、京都から丹波山にゆく。常陸国鹿島の僧が石の見学に来訪。

・・・1762 = 38歳：伊吹山麓を経て越前敦賀にゆく。山城山科郷牛尾山に登る。平賀源内が開いた東都薬品会にも協力。

・・・1763 = 39歳：播磨高砂に三浦氏を訪う。実母が死去。播磨神埼郡北村地方を探る。近江浅井郡より再び越前敦賀にゆく。

加賀千代句集1764 = 40歳：美濃にゆく。近江田上山に登る。大坂物産会に出席。

蘭銭初輸入・1765 = 41歳：山城相楽郡鷲峯山に登る。京都東山物産会に出席。

忠臣蔵大当り1766 = 42歳：伊勢の津に同志を訪う。京都東山物産会に出席。

明和事件・1767 = 43歳：美濃御嶽月吉山方面を探る。

・・・1769 = 45歳：山城鞍馬山に登る。

・・・1770 = 46歳：この頃、*同好の志と(弄石社)を組織、{奇石会}を開いて、その地位を揺るぎないものとして以後、蒐集したものを整理分析することに専念、

御蔭参流行・1771 = 47歳：近江田上谷羽栗山を探る。

田沼意次老中1772 = 48歳：京都法泉寺を訪う。「雲根志」前編稿成る。

大原騷動・1773 = 49歳：能登付近探勝。美濃金生山を探る。「雲根志」前編を刊行。

解体新書・1774 = 50歳：彦根藩儒野村公台石亭を訪う。

黄表紙始・1775 = 51歳：大坂に遊び、木村兼葭堂を訪う。

この間、妻・母・伯父・義弟が相次いで死去したばかりか、師田村藍水や同志の平賀源内・谷川土清、さらに愛弟子までも失い、孤独感を強める。

江船蝦夷来1778 = 54歳：江戸に遊ぶ。

源内獄中死・1779 = 55歳：志摩安乗浦に遊ぶ。「雲根志」後編を上梓。

・・・1780 = 56歳：相模鎌倉に遊ぶ。木曾街道を経て帰宅。

蘭学階梯・・・1783 = 59歳：病重になると、悲痛な遺言状をしたためたが、回復。「曲玉問答」を著す。*この頃から神代石(考古学遺物)が全国的に流行し始め、自らの奇石に対する考えとは異なるものの対応して、華々しい老後を迎え、

田沼意次失脚1786 = 62歳：

寛政改革始・1787 = 63歳：

・・・1788 = 64歳：この頃より、交友飛驒の二木長嘯との文信頻繁となる。この頃、「首石町巻」成る。伊勢にゆく。

ウツ来日・1792 = 68歳：「舍利辯」を著す。

松平定信引退1793 = 69歳：古稀の祝宴を開く。

ウツ 正月・1794 = 70歳：諸国の交友より七〇歳の賀詞を受ける。「著述書目」「竜骨記」「嫉石伝記」を著す。

ブート来航・1796 = 72歳：「天狗爪石奇談」を著す。

昌平嚮始・1797 = 73歳：中絶していた(奇石会)を京都の源光忠が再興、

古事記伝・1798 = 74歳：妻を失う。

伊能測量始・1800 = 76歳：石亭寺畔に石亭登遊記念碑建てられる。飛驒高山の人大坂治助・森桃林、石亭を訪れ奇石を見る

アカ船来航始1803 = 79歳：神代石の成果を「雲根志」三編にまとめ、

青洲麻酔手術1805 = 81歳：生地氏神坂本村幸神社に石燈籠を寄進。

エト号事件1808 = 84歳：没した。

吉川弘文館人物叢書、「人づくり風土記」(滋賀)、「没年日本史人物事典」